

# 令和5年度第1回れんけいこうち広域都市圏ビジョン推進懇談会 議事概要

日 時	令和5年8月2日（火） 10:00～12:00
場 所	高知市役所本庁舎 6階 611・612・613 会議室
出席者	別紙参照

## 1 開会

## 2 挨拶

高知市（岡崎市長）

## 3 議事

### 【受田座長（開会挨拶）】

- ・ れんけいこうち広域都市圏の意義は、高知市と県内33市町村及び高知県の一対一の協定のもと、全県的に連携を強化し、各市町村の取組とのシナジーを発揮することで、人口ビジョンを早期実現することにある。
- ・ 今年度から第2期に入り、今回が新たなメンバーを迎えての1回目のビジョン推進懇談会になる。画期的なアイデアというものはそう簡単に浮かんでくるものではないが、ある程度連続性を超越した思い切ったアイデアを俎上に載せていただきたい。
- ・ 国内での熾烈な人口の奪い合いには限界があることから、この先、海外との連携あるいはパートナーシップが求められるとなれば、ミクロネシアや台湾のような高知との繋がりがナラティブに語れる国・地域とのパートナーシップを追い求めて行っていいのではないかと思う。
- ・ 本日の議論が盛り上がることを心より祈念し、議事に入っていく。

## 【議事1】第1期れんけいこうち広域都市圏ビジョンにおける取組について

### 【事務局】

(資料説明)

### 【谷脇明委員】

- 7月22日、23日に高知県農商工連携協議会がアグリコレットで開催した「とさのぼん酢まつり」では、各地のぼん酢が1,000本以上売れるなど大盛況であった。昨年度末をもって「圏域事業者販売等支援事業」におけるアグリコレットでの事業者支援は終了していたために、今後について不安な声もあったようだが、その後も順調に推移しており、れんけいこうちが築き上げてきたものを示す好事例の一つだと考えている。

### 【井奥委員】

- 第1期の分野KPIの達成状況について、令和4年度の「県外観光客入込数」の実績は、目標値に対して81.7%、コロナ前の令和元年度実績に対して84.7%となっている。また、インバウンド観光推進に係る事業KPIとして、令和4年度の「観光案内所の外国人利用者数」と「外国人観光客の(AI)システム利用者数」の実績は、令和元年度実績に対してそれぞれ39.6%、61.7%となっている。中国政府の団体旅行規制の影響もあると思われるが、インバウンド観光はこれから大いに伸びる余地があるため、第2期では、海外に向けたPR・広報に力を入れていただきたい。

### ⇒【受田座長】

- インバウンドを含めた観光の分野はコロナ禍で最もダメージを受けた。これからの観光振興は、このコロナ禍にどれだけの仕込みができたか、あるいはアフターコロナにおいて戦略をいかに具体化できるかにかかっていると看做しても過言ではない。

### 【吉富委員】

- 全く知らない土地に急に移住するケースもあるだろうが、「過去に観光で訪れたことがある」「知り合いがいる」といったように、何らかの関わりがあって移住に至る人が多いと思うが、「県外観光客入込数」や移住の相談件数及び移住組数、また、観光や移住に関するホームページ閲覧数などとの関連性について見出せているものはあるか。

### ⇒【事務局】

- 関連性は掴めていない。平成30年度に「観光客動態調査事業」において、携帯電話の位置情報を活用し、観光客の出入りを分析した。また、「二段階移住推進事業」では、移住いただいた方々へのアンケート調査などで個々にデータ収集していることから、第2期ではEBPMの推進という意味でも、横のつながりという見方も踏まえて、データをしっかりと活用していきたい。

⇒【受田座長】

- ・ ペルソナ（ターゲットをさらに踏み込んで詳細に表した人物像）を意識しながら、実際にその人がどのような行動を起こし、どのような結果に至ったかを点ではなく軌跡で見て、分析していかなければならないという、第2期における具体的なEBPMの推進に関して貴重なご意見をいただいた。

⇒【吉富委員】

- ・ 分析にあたっては、結果的に移住された方の移住に至るまでのプロセス、いわゆるカスタマージャーニーを把握することが今後の具体的な戦略につながると思う。

## 【議事2】令和5年度連携事業の主な取組について

### 【事務局】

(資料説明)

### 【五百蔵委員】

- ・ 「ホームページの閲覧数」を事業 KPI としている事業があるが、閲覧数だけではなく、閲覧者がどこから来て、どのページに関心があるのか、あるいはないのかといったレベルまで解析していくべきではないか。また、「大型船舶寄港誘致・誘客促進事業」や「インバウンド観光推進事業」などの観光分野においても同様で、人の移動軌跡をデータで見えていく必要がある。
- ・ パンフレットや動画の多言語化に関して、YouTube などには自動翻訳機能があるので、まず日本語で質の良いものを作れば、海外の方にもその翻訳機能を通じて関心を持ってもらえると思う。
- ・ デジタルデバイド対策におけるスマホ教室について推進会議で協議されているが、福祉や健康などの分野とセットで考えていくこと、また、県内各地の「あったかふれあいセンター」を拠点として取り組むことも考えられると思う。

### ⇒【受田座長】

- ・ リピーター観光客の消費は1回目よりも高くなるというデータがあることから、リピーターの確保には客単価を上げるという意図があり、それにはアクセスポイントも含めたより明確なデータ解析が必要ということになる。この部分のデジタル化にあたっては、れんけいこうちの取組のみならず、デジタル田園都市国家構想を踏まえた県の総合戦略にも落とし込んでいく必要があると思う。

### 【徳重委員】

- ・ 県では、昨年からは観光と移住の分野でデジタル分析に取り組んでおり、移住に関して言えば、ホームページを見た方のうち何人が相談所に来て、そのうちの何人が高知に足を運んでくれるかといったデータが数字として出てきている。最終的に移住増につなげていくためにも、ページの解析という視点は参考にさせていただく。
- ・ デジタルデバイドについては、総務省が携帯ショップでのスマホ教室開催に取り組んでいるが、県内の21町村には携帯ショップがない実態を踏まえ、県としても、スマホの操作や活用方法を教えるサポーターを養成する取組（スマートフォン活用サポーター養成事業）を令和4年度に開始した。ただ、養成後のサポーターの活躍の場については課題があったので、福祉との連携という意味でも、人が集まりやすい「あったかふれあいセンター」での活動についても考えていきたい。

### 【吉田委員】

- ・ 分野 KPI の実績値について、「観光総消費額」を「県外観光客入込数」で除すると、一人あ

たりの消費単価は概ね変わらず推移していることから、「らんまん」のような大きなイベントがなければ、「観光総消費額」は再び減少に転じるものと推測される。

- ・ 高知県は一次産業を中心とした食や自然が魅力なので、それらを生かした観光振興により、いかに長期滞在してお金を使ってもらうかがキーとなる。そのためにも、知名度のある四国遍路とサイクルツーリズムを掛け合わせたマネタイズや、ガイドの有償化などを含め、人材育成を図りながら、魅力的な高知の資源をしっかりと高く売っていくことが必要だと思う。
- ・ 外国客船の利用客は、船内ではクルーズカードを利用した完全なキャッシュレスで過ごしているが、寄港地での移動や買い物の際はキャッシュレスのシステムがないと、消費につながらない。海外のキャッシュレスはクレジットカードが主流だが、そのシステム導入のコストを転嫁した価格設定にする方法もあると考える。

#### ⇒【受田座長】

- ・ 観光客一人あたりの消費単価による分析はすぐにできるので、今後の事業改善に関する議論の材料として対応いただきたい。
- ・ 事務局説明にあった中芸地域の「ゆずロード」と同様に、四国遍路文化も日本遺産に登録されている。ストーリーの体験というコンテンツをいかにマネタイズしていくかという発想に加え、そこに日本語や外国語での奥深い観光案内をどのように織り込んでいくか、また、ガイドの技術の継承や有償化などはいずれも重要だと考える。また、お遍路は客単価を上げるうえでも観光資源として極めて魅力的である。

#### 【八田委員】

- ・ 高知ではまだ遅れているが、今、全国的に一泊数万、数十万円といった高価な宿泊施設の増加とともに、滞在型観光へのシフトが進んでいる。個人旅行者への対応として、高知の文化や自然を売りにした滞在型観光の促進と、収益化の促進に取り組んでいくべきだと思う。その点において宿泊事業者への支援などを県には検討いただきたい。
- ・ 「二段階移住推進事業」はプロモーションの効果もあり知名度が高まっていると思うが、令和4年度の「二段階移住組数」の実績は5件と、「県外からの移住組数」1,185組に対して割合が低い。この点を否定的に見るのではなく、「二段階移住」の制度そのものが高知への移住に好影響を与えていることも考えられるので、広い視野から効果測定してほしい。
- ・ 「高知みらい科学館機能強化事業」で各地の図書館でモバイルミュージアムを実施されているが、香美市の龍河洞博物館など、県内には維持が難しくなっている博物館や科学館があり、高知みらい科学館を拠点に、各地の博物館や科学館との連携も深め、展示物交換による特集展示やデジタルスタンプラリーなどの企画で盛り上がるようけん引していただきたい。

#### 【徳重委員】

- ・ 四国知事会でもお遍路の活用が議題となっており、まずは案内板や遍路道の整備を進めているところである。お遍路を観光資源として生かす視点など、いただいたご意見については観光振興部とも共有していく。

- ・ キャッシュレスの推進は、外国人観光客のみならず国内観光客の消費喚起にもつながる。商店街からは、Wi-Fi 環境の整備について要望も出ているので、県としても今後検討していきたい。
- ・ 高知県内ではホテルのワーケーション対応や、グランピング施設等が増えており、好調であると聞いている。こうした施設が高知型観光には合っていると考えている。
- ・ 先日開催された全国知事会においても、人口減少・少子化問題が最も活発に議論された。本県としては、女性の流出防止及び中山間地域を中心とした転入増加に力を入れる必要があると考えており、「二段階移住推進事業」も積極的に推進していきたいと考えている。

#### ⇒【受田座長】

- ・ キャッシュレスの推進はれんげいこうち広域都市圏における議論で非常に重要な観点となっているため、高知市を中心に仕組みを定着させ、それを連携市町村にいかに関波及させるかがポイントとなる。
- ・ 人口の話で女性の観点は非常に重要であるが、本懇談会には女性の委員がいないので、本懇談会とは別に女性の意見を取り入れる場や方法があってもいいと思う。

#### ⇒【高知市（中澤副市長）】

- ・ 本市では、委員選任にあたって、女性の割合が4割未満としないことを基本的な考え方としている。本懇談会は各団体による推薦や充て職による選任から結果的に女性が少ない状況であるが、ご意見を踏まえ今後検討していく。

#### ⇒【受田座長】

- ・ 全国的に外国人居住者が増加している状況も踏まえると、外国人も含めた多様な視点から議論できる工夫もあわせて願う。

#### 【吉富委員】

- ・ 効率化の観点からも、国、県、れんげいこうち広域都市圏、市町村、それぞれの施策の関係性や連続性を、フレームワークなどを用いて整理していくべきである。
- ・ 県では、観光総消費額の増加を目指して、地域の奥深くまで人を送り込み、その結果滞在日数を増やすことをコンセプトに、4年間の観光の計画を立てている。先程申し上げたように、観光があって、関係人口があって、移住がある。「広域観光推進事業」で制作したプロモーション動画自体は素晴らしいが、色々な場所を見ていただいた後、地域の人たちと触れ合うところまでの設計が必要だと思う。
- ・ 先日、高知市土佐山で草刈りにゲーム性を持たせたイベントを開催したところ、関東や大阪、山梨などから10人が交通費と参加費を支払って参加してくれた。地域の奥深くまで入ってもらうことが滞在日数増だけでなく、リピーター獲得につながることもある。
- ・ ただ、地域の奥深くまで行くほど、タクシーやバスなどの二次交通、ガイド、飲食の場など様々な問題がある。そうした時に、現行法の中でどこまで対応可能なのか、協議会の立ち

上げや究極的に特区となることも考えられるが、地域にどうやって人を送り込み、対応していくかを示したガイドラインがあれば現場が動きやすくなると思う。

#### 【谷脇禎哉委員】

- ・ 滞在型観光を促進することで、県内を広く深く観光してもらうことができ、そういった観点は重要と考える。交通事業者としては乗務員不足が深刻な課題であるため、長期滞在によりゆっくりと地域を周遊してもらうことが二次交通不足の解消や地域の観光業の振興、ひいては地域交通の維持・発展につながっていくと思う。

#### 【宮地委員】

- ・ キャッシュレスが当たり前になる社会の実現に向けては、ぜひ推進していただきたい。
- ・ 株式会社地域商社こうち、高知商工会議所、高知市との3者協定に関しては、現在は食を中心とした県産品の販路拡大支援であるが、将来的には技術や防災製品等のモノ、情報などの取り扱いや、海外展開支援なども出来ればと考えている。
- ・ 先月、アンカー・インフィニット株式会社と協定を締結し、クルーズ船「飛鳥Ⅱ」寄港時の旅行ルートを案内できる仕組みを作っている。何か要望等があればぜひご相談いただきたい。

#### 【筒井委員（代理）】

- ・ 人口減少とデジタルがキーワードと捉えている。国は異次元の少子化対策を掲げているが今のところ財源は不透明なため、この段階だからこそ、例えば女性に着目した高知発信のモデル事業が展開できればよいと考える。
- ・ SNS で県内観光地の画像や動画が流れることがあるが、ただ見るだけで終わることが多いと思うので、そこから実際に観光や移住につなげていく仕組みが考えられないか。例えば、SNS で発信できる職員を養成して、市町村職員自らが発信することも面白いと思う。

#### 【受田座長（閉会挨拶）】

- ・ 事務局においては、本日の貴重なご意見や具体的な提案を突破口として、異次元のれんげいこうちを目指して取り組んでいただきたい。

## 4 閉会

以上